静岡大学付属図書館

図書館通信 ―4―

1970. 7

農学部分館の窓から

農学部分館長　金　兵　忠　雄

磐田の分館は今から約20年前、静岡農科大学のとき建てられたもので、閲覧室（50席）と事務室が約300㎡、書庫（2階建）160㎡、計460㎡。蔵書数は約3万冊、年間受入図書1,500冊、同雑誌700種、図書係職員4名（うち臨時1）。対象は学生約350人（3年・4年生と院生）、職員150人である。図書（別に編輯も兼ねて）委員会（5名構成、各学科から1名ずつ）を設けて、各科教室（付属農場・演習林）とも連絡しながら運営している。

近い将来、農学部の片山キャンパスへの統合移転が実現した暁には、従来と外形・内容ともかなり変ったものとなるであろう。今年からは修士課程もできたが、その審査のときの条件にもあったように、専門の外国雑誌の点数を増やさなければならない。現在では雑誌700種のうち、国内・外の比が約4：1であるのを、せめて3：1かそれ以上にしたいものである。

今年の夏は書庫の蔵書を配置換えして利用される方に一層見易いようにし、また秋までには、学生の希望もあって参考図書の一部を開架式にする予定である。そのほか、図書カードの整理、不明図書調査など、より「親しまれる図書室」をモットーに、S係長ほか関係者一同張りきっている。

冬には書庫の西窓に吹きつける風の響きは、いささか冷めたさを感じるが、これからはいい。緑に映える樹々の間をそよぐ空気の味は格別。農学部という小さな殻にはまった嫌いは拭い去って、静かで和やかな環境は、これから後ももちつづけたいものである。

「大学の研究と教育にたいする図書館の在り方とその改革について（中間報告案）」に対する意見

静岡大学

国大協、図書館特別委員会による「大学の研究と教育にたいする図書館の在り方とその改革について（中間報告案）」を検討して感ずる第一の疑点は、「まえがき」に示された「各大学の参考に供する」という本報告案の基本姿勢についてである。

本報告案に示された内容の大部分は一大学の力によって内部的に解決できるような性格の問題ではなく、国立大学一般が共通にかかえていて、解決をはからねばならない問題である。したがって本報告は何よりも文部省に対する勧告、ないしは要請として示されるべきものではなかろうか。

われわれはこの観点から本報告の内容に基本的に賛意を表しつつ、なお報告案に欠けている点、および特に強調すべき点について、以下指摘する。

記

（1）予算については本案に何等ふれられていないが、これこそ正に根本的な問題であって、図書館維持費および図書構入費等について図書館の規模、利用者数等に応じた適切な予算措置が講ぜられる

べきである。特に学習図書館としての充実をはかるためにはそのための図書購入費を特別に立てることが絶対に必要である。

（2）図書館職員定員をその図書館の規模、利用者数等を基礎にして必要に応じて増強し、かつ司書職制度を確立するために予算的措置を伴う具体的な方策を示すべきである。

（3）図書亡失に伴う法規的な問題について適切な処置を具体的に示す必要がある。

（4）電算機の導入については広域的に配置し、各大学には端末器機を設置するような方式を考慮すべきである。

■図書館委員会報告

昭和45年4月7日

（第1回）　於　本　館

(1) 今年度から各学部、教養部選出の図書館委員が、指定図書制度委員を兼任することになった。昭和45年度指定図書について、今回は第1次分として、現有の中から例年どおり前期課程開講の全科目を対象に指定することになった。従来と異なる点は個人指定は必読書に限定し、それ以外のものは自動的に推薦書・参考書として科目（学科）単位の指定とすることになった。

（第2回）　4月17日

(1) 「大学の研究と教育に対する図書館の在り方とその改革について（中間報告案）」についての各学部、教養部からの意見が出されたが、東部委員3名による小委員会で案文をとりまとめ、評議会に提出することとした。

(2) 現有の指定図書を対象として、5月11日までに運用係へ指定申込みをすることになった。

（第3回）　6月5日

(1) 指定図書費について、財源上、若干額を維持費の別枠ないし維持費と並べて考慮されるよう維持費検討委員会を通じて全学予算配分委員会に要求することになった。

(2) 法経短期大学部から同学部図書移管の申入れについて審議した結果、公式申入れは、短期大学部から学長→評議会に対して行うべきものであろうとの見解に達し、館長より短期大学部に伝えることになった。

(3) 附属図書館閲覧規程、第9条の3の一部を「貸し出し期間は、教職員は1ケ年以内とする」に改正する。この規則は昭和45年6月15日から施行し、昭和45年4月1日から適用する。

■東部地区図書委員会

昭和45年4月28日

（第1回）　於　本　館

(1) 延長開館の実施について

期間：5月11日～6月30日

開館時：月火水金　17時～19時30分

土　12時30分～16時

（第2回）　5月26日

(1) 本館の昭和45年度維持費の予算説明とその概算要求を維持費検討委員会に諮る旨、報告があり、諒承された。

(2) 昭和45年度教養図書費の内、旧大岩分室の新聞、雑誌分が軽減されるので、次回まで取捨すべき紙誌名の検討を依頼した。

（第3回）　6月5日

(1) 法経短期大学部図書移管について、経過報告がなされ審議を行った。

（第4回）　6月16日

(1) 昭和45年度教養図書購入費（東部供出分）の総額は東部学部・教養部の積算校費の1.7%相当額とする。第1回の選定は7月10日前後に行う。

(2) 夏期休業中の休館と長期貸出について協議決定した。

「おしらせ」の欄に掲載のとおり。

(3) 昭和45年度図書購入費の概要の報告があった。

（3ページよりつづく）

宗像誠也「教育と教育政策」（岩波新書）も是非読みたいもののひとつである。

教育理論に関しては、矢川徳光「ソビエト教育学入門」（明治図書）、勝田守一「教育と発達と学習」（国土社）、同「教育と教育学」（岩波近刊）などが教育に関する学習の助けとなり、思考力を練磨してくれるであろう。

総じて、われわれやそのあとの世代が現代日本に生きる人間として、どのような成長をとげていくべきなのか、そのために「学習」・「研究」のしかたでどういう努力をすべきなのか。こうしたことをおいては、教育学の学習・研究もみられないであろう。このことを問題としている本のひとつとして、上原専禄「国民形成の教育」（新評論社）をあげて、擱筆する。

（教育学部　助教授　教育制度）

私のすすめたい本

「教育」と「心理学」のあいだ

内山武治

「教育心理学」とは何か、と問われると、正直のところ、その答えに窮せざるをえない。というのは、教育心理学は文字通り「教育」と「心理学」の両方に関係する学問で、そのどちらを重視するかによって、教育心理学の性格規定が違ってくるからである。

歴史的にみれば、教育心理学の一応の体系づけがなされた今世紀の初め頃は、「心理学」の立場で教育心理学が考えられていた。つまり、心理学で得た知見を教育現象に応用する学問、という性格である。これに対して、今世紀の半ば頃から、教育心理学は教育実践にもっと貢献しうるものでなければならない、という反省がでてきた。そしてより「教育」の方向に偏った立場で、教育現象を心理学的に研究する学問、という考えが、今日では一般に受入れられている。

しかし、実際の内容は、ほとんどの概論書がそうであるように、発達、学習、人格、評価、という章だてになっており、必ずしも性格規定にそった内容構成とはいい難い。そして今日なお、教育心理学は教育実践に何ら役に立たない、という批判がくすぶっている。今や、教育心理学は新しい方向性をうち出すべき時にある、と私には思われる。

そこで、免許状のためでなく、教育心理学を真剣に勉強しょうと思う学生諸君は、いきなり教育心理学の本にとびつくのではなく、まず、現代の心理学を認識することから出発するようすすめる。教育心理学の性格は変っても、心理学の中の一分野であることは変らないと思うからである。その恰好な入門書として、次の二冊をすすめる。

1)末永後郎編　現代心理学入門　有斐閣　昭38

2)末永後郎編　心理学研究入門　有斐閣　昭41

2)は1)の続篇であり、特殊な領域に研究を進める際の足ががりとなるものである。

さて、教育心理学の入門書としては、次のものをあげたい。

3)依田　新　教育心理学入門　有斐閣　昭35

とりあげられている問題領域が限られているうらみはあるが、内外の教育心理学の発展を扱った第一章は貴重なもので、新しい方向性を示唆されよう。

（教育学部　講師　教育心理学）

教育を学ぶことをめぐって

牧　柾　名

教育をうけることによって、人間は人間になっていく。しかし、教育と名がつくものならば、それはすべて人間的発達にとって好ましいものなのかといえば、そうもいえない。少し大げさにいえば、いまも「教育」が、人間的生存に挑戦している、ともいえる。まったくやっかいなことである。それだけにまた、教育を研究する面白さもあるといえよう。

さて、教育について考えるうえで何を読んだらいいか、という編集者の注文にこたえねばならない。

このやっかいな問題に深入りするにあたって、水先案内人の役割はとてもわたくしにはつとまらないが、まず、自己形成の過程を対象化してみることが必要ではないだろうか。もっとも、教育はつきつめていけば「自己教育」だともいえるから、これは終りのないテーマというほかはないが。

そのための一助として、そしてまた教育の学習のはじまりとして、教育の歴史と教育現実の総体を、アクチュアルにしかも冷静にとらえた本を読むのがいい。総体を総体として書いたなどという都合のよいものはないから、あくまで部分的であり、ひとつの方法であるという前提で、二、三の本を紹介しておこう。

歴史に関しては、梅根　悟「世界教育史」（新評論社）、玉城　肇「日本教育発達史」（三一書房）、宮原誠一「教育史」（東洋経済）、やや方法はことなるが勝田　守一・中内　敏夫「日本の学校」などは、読んでおくねうちがある。クルプスカヤ「国民教育と民主主義」（岩波文庫）も小冊子ではあるが、多くのことを考えさせ、学習の意欲をかきたてるだろう。

日本の教育現実や教師の実践記録については、あまりにも多くのものがあって紹介に苦しむ。無着成恭「山びこ学校」、土田茂範「村の一年生」小西健二郎「学級革命」などの、実践記録や子どもたちの文集には、いちど是非目を通してもらいたいと思うし、日本の教育現実については「教育の森」(毎日新聞社）がよく問題をとらえている。

（2ページへ、つづく）

おしらせ

図書の長期貸出実施について

(1) 貸出冊数　1人4冊以内（但し、指定図書は2冊まで）

(2) 申込みに必要なもの

(a)館外貸出証　　(b)長期貸出票

（bはカウンターにあります。指導教官もしくは、これに代わるべき教官の捺印を必ず受けて下さい。）

(3) 申込み期日　　6月30日まで

(4) 貸出日　　7月6日（月）～8日（水）

(5) 返却日　　9月1日（火）～3日（木）

※a・申込みの時に貸出票の半券を渡しますので、貸出、返却時には必ず持参して下さい。

b・長期貸出作業のため、6月21日（月）で、普通貸出は停止いたします。

休館について

本館は下記期間中休館いたします。

7月21日（火）～8月25日（火）

■浜松分館だより

欧文参考図書（昭和44年度受入分）

Chemical abstracts. 7 th collective index. vol.55—65. Author, subjeccts. A-Lit.　（化図）

Encyclopedia of philosophy. 8 v.　（短大）

Kirk-Othmer encyclopedia of chemical technology. vol. 16—18.　（化図）

The great ideas today. 1969.　（図書館）

Beil stein Handbuch der organischen Chemie. 3 Ergzngungswerk. Bd. 6 — 9.　（化図）

International critical tables of numerical data. Phsaics, chemisry and tech nology. 8 vols.　（短大）

Dictionary of American biography. 10 vols　（短大）

The dictionary of national biography from the earliest times to 1900. 22 vols.　（短大）

Prominent scientists of continental Euroqe.　（図書館）

Times atlas of the world.　（短大）

■レファレンス　—案内—

3階カウンター中央にあるレファレンスの役割について述べてみます。まず具体例を挙げてみましょう。

○アメリカ大使館の住所は？

○Wordsworth のSolitary Reaper を見たい。

○日本の婦人労働関係の文献はないか？

これらの質問に応ずるのが、レファレンスです。この他にも、調査探索トゥールを教えてもらいたい、とか、この資料はどこにあるか調査を願いたいという質問もレファレンス係で受付けます。

ただし、次の様な相談、質問には応じられません。

○法律相談　○宿題　○懸賞問題

○仮定もしくは将来の予想に属する問題

ここで問題になるのが、担当者と調査探索トゥール（参考図書という）の問題です。図書館業務はなべてそうですが、レファレンスも又、理論、原則で一様に解決できる便利なものがあるわけではありません。実際の業務を通じて、利用者に満足のゆく回答を提供できるものだと思います。最善を尽したいと願っていますので、大いに利用して下さい。

次に参考図書ですが、本館の参考図書は一括して参考図書室（3階）に配架してあります。豊富なコレクションとは言えませんし、書庫にも有用な図書が眠っています。徐々に整備してゆく予定であります。参考図書には、言語辞書・百科事典・専門事典・年鑑・ハンドブック・地図・年表・データブック・名鑑等が含まれます。求める資料が見当らない場合には適切な協力ないし措置をとりますので御相談下さい。

電話での御利用は**内線276**へお願いします。

■人事異動

〈本館〉

—採用—

運用係員　小野田勇男　　新採用

—辞職—

総務係員　佐塚のぶ

静岡大学附属図書館　「図書館通信」　No. 4　1970年7月1日発行
発行所　静岡大学附属図書館　静岡市大谷836　TEL(85)1175
印刷所　文化洞　静岡市大岩北1185　TEL(45)6260